

情報公開文書

研究の名称	悪性腫瘍による Gastric outlet obstruction に対する緩和的手術の有効性に関する検討
整理番号	
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	消化器・腫瘍・総合外科 藤井 努
研究の概要	<p>【研究対象者】 2001年から2025年12月31日までに当院で悪性腫瘍による悪性胃十二指腸閉塞に対して胃空腸バイパス手術を受けた方</p> <p>【研究の目的・意義】 胃癌、膵臓癌などのうち切除不能な症例のなかで約20%が悪性胃十二指腸閉塞を生じるとされています。悪性胃十二指腸閉塞に対する治療法として、これまで内視鏡的ステント留置もしくは外科手術による胃消化管バイパス術が選択されてきました。内視鏡的治療は負担が小さい一方で、消化管穿孔などのリスクから長期留置が困難であったり、閉塞部位によってはステントを留置することができないといった短所があります。胃消化管バイパス手術は閉塞部位によらず手術が可能であり、長期的に管理することができます。抗癌剤治療をはじめとした悪性腫瘍に対する集学的治療の進歩により悪性胃十二指腸閉塞を生じた場合でも、その後の長期的に治療を継続できることがあります。そのため長期的に管理ができる胃消化管バイパス手術の有用性を検証することで、悪性胃十二指腸閉塞を来す可能性がある症例に対して有効な治療計画を確立する一助となることが期待されます。</p> <p>【研究の方法】 2001年から2025年12月31日までに当院において悪性胃十二指腸閉塞に対して胃消化管バイパス手術を施行した症例を対象として、臨床データを収集し、後方視的に有効性を検証します。</p> <p>【研究期間】 実施許可日 ~ 2025年12月31日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 学会発表および学術雑誌への掲載により公表します。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)	本研究で用いる情報はカルテから、臨床所見、手術所見、術後経過、生存期間などの情報を抽出し統計学的な解析を行います。また他機関への情報の提供はありません。
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	富山大学 消化器・腫瘍・総合外科 藤井 努
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者(研究主機関における研究責任者氏名)	富山大学 消化器・腫瘍・総合外科 藤井 努

研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	研究対象者からの除外(試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む) を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。 電話 076-434-7331 FAX 076-434-5043 E-mail hrnkths@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名 消化器・腫瘍・総合外科 平野勝久
--------------------------	---